

令和 8 年 3 月 31 日現在

1 施設名称

特別養護老人ホーム 偕生園
(開設 昭和 56 年 1 月 5 日)

2 所在地

浜田市黒川町 196 番地 1

3 事業計画の達成状況

(1) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり

ア 福祉・介護業界のイメージアップを図り、多様な働き方を推進する。

実 施 策	準職員及び非常勤職員の確保
取組の方向性 ①	圏域の就職セミナー等人材確保に係るイベント情報を把握し、イベントに積極的に参加する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 福祉職場相談会やハローワーク主催の介護就職デーへの申し込みを行い、積極的に、来場者へ事業説明等実施し、人材確保に繋げる。(継続) 施設見学の依頼があった際には、依頼者の希望に沿った施設見学を実施していく。(継続) 令和 8 年度の技能実習生の受入れに向けて、事務局と連携を図りながら準備を進める。(新規)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> 福祉職場相談会に加え、一般企業も参加する企業説明会に継続して参加した。また、新たにハローワークと協力してジョブガイドツアーを企画し、求職者の方に来園してもらい、施設見学と職場説明を行った。採用には結びつかなかったが、ハローワーク職員の偕生園への理解が深まり、求職者に園のことを具体的に紹介してもらえるようになった。今後においても、園の PR を継続するため様々なイベントに参加することが重要である。 施設見学の依頼があった際には、依頼者の希望に沿った見学を実施した。 技能実習生受入チームを 8 回開催し、令和 8 年度に受入れ予定である技能実習生との信頼関係の構築、受入態勢の整備等、個々の習熟度や文化の違いを理解し、施設全体で温かく迎え入れるために組織的に取り組んだ。他施設見学や専門講習を重ね、介護現場での指導体制や生活支援、業務マニュアルの整備等具体的な検討を進めるとともに、住居の確保、職員や入居者への周知など、実習生が安心し

		て働くことができる環境づくりについて、多角的に準備を行った。
取組の方向性②		介護職員初任者研修の実習者を積極的に受け入れる。
	行動計画	・ 実習機関からの実習依頼を積極的に受け入れ、職員の雇用に結びつける。(継続)
	評価	・ 雇用には結びつかなかったが、浜田医療センター附属看護学校、明誠高校、浜田一中及び浜田二中から実習生を受け入れた。
取組の方向性③		施設実習や職場体験で来園された方を対象に情報発信を行い、繋がりを築き、新たな人材を発掘する。
	行動計画	・ 介護初任者研修実施機関と連携を持ち、求人情報等の提供を行い、就職希望者の実習に繋げる。(継続) ・ 偕生園での行事や求人情報をホームページ等で発信する。希望者にはダイレクトメールで情報発信する。(新規)
	評価	・ 介護職員初任者研修実施機関と連携し、求人情報等を提供したが、就職希望はなかった。 ・ 福祉講演会や寄り合い喫茶は、定員制限のある地域限定のイベントだったため、ホームページ等では発信しなかった。また、求人情報はホームページで発信したものの、ダイレクトメールの希望はなかった。

実施施策		準職員等の退職後の再雇用
取組の方向性①		準職員を定年退職したあとも非常勤職員として継続して雇用するため、業務内容や勤務時間等の選択肢を増やすことにより、慣れた職員が長く働くことができる働き方を提供する。
	行動計画	・ 定年を間近に控えた準職員を対象に個別面談を行い、非常勤介護員、夜間介護員、介護助手の雇用条件に係る説明をし、就労希望がある際は、雇用に繋げる。(継続)
	評価	・ 退職者に非常勤介護員等の雇用条件について説明したが、就労希望はなかった。
取組の方向性②		再雇用できない場合は、ユニット外活動の運営ボランティア等、引き続き偕生園に関わってもらえるような仕組みを作る。
	行動計画	・ 地域における公益的な取組や施設内デイサービス、生け花クラブ、習字クラブなどの余暇活動にボランティアとしてかかわって頂くよう依頼を行う。(継続)
	評価	・ OB職員に習字クラブのボランティアとして活動していただき、生け花クラブには外部ボランティアに参加していただいた。

イ OJT 制度を中核に職員一人ひとりを育成し、チームケアを推進する。

実 施 策	モチベーションの向上
取組の方向性①	目標や方向性を明確にした複数の専門部会を設置し、ユニットを超えた職員間で継続的に専門性を高める取組を進める。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 令和7年度より新たに設けた4つの部会において、解決課題を明確化しチームで解決に取り組み成果を上げることによりモチベーション向上に繋げる。(継続)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> 入居者や職員から仕事に関連して希望を募り、外出支援、フォトコンテスト、ケアコンテスト、不用品整理等を実施した。個人としての達成感や、職員間で協力できた達成感からモチベーションアップにつながった職員もいたが、負担に感じた職員もいたため、取組の目的やねらいを十分理解した上で取り組む必要がある。
取組の方向性②	専門部会員とユニット職員双方のモチベーションの向上が図れるよう、各部会での取り組みをユニットへフィードバックし実践する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 毎月のユニット会議において、専門部会の議事内容の報告を行い、専門部会員以外の職員も活動内容を把握し、専門部会の活動に協力する。(継続)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ユニット会議で周知するとともに、必要に応じて議事録を回覧したが、部会員以外の職員の活動内容の把握については課題が残った。

ウ 職場風土を改善し、職員の定着率とモチベーションを高める。

実 施 策	働きやすい職場風土の構築
取組の方向性①	管理職やリーダーが、偕生園行動指針の「あいさつ」「笑顔」「学び」のキーワードを意識した行動を心掛けるとともに、管理職が定期的な個別面談を行いユニットのメンバーが良好な人間関係を構築できるよう環境を整える。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 正規職員（7月、12月）と準職員・非常勤職員（6月、2月）との個別面談を定期的実施する。仕事に対する思いや悩み、身体面での不調がないかを確認し、必要に応じてアドバイスや提案を行い、働きやすい職場環境等の改善に繋げる。(継続)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> 正規職員（7月、12月）及び準職員・非常勤職員（6月、2月）について管理職面談を実施し、個人情報に留意した上でグループリーダーと情報共有を行った。また、体調面や業務、人間関係等の悩みや負担について傾聴し、必要に応じて早期解決を図り、職員の負担軽減や働きやすい職場環境の構築に努めた。

取組の方向性②	職員の親睦会等をとおして良好な人間関係を構築できるよう、多様なイベント等を実施する。
行動計画	・ 職員間や多職種の交流を深めるため、管理職や有志でカフェを計画、実施する。(変更)
評価	・ カフェは実施できなかったが、収穫祭などの園行事や職員親睦会をとおして職員間の交流を図った。

エ 業務の生産性を高め、ワークライフバランスを推進する。

実施施策	業務の効率化
取組の方向性①	各ユニットに偏りなく眠り SCAN を配備するため、20 台を段階的に導入し、夜間の適切なタイミングでの排泄ケアや訪室回数の削減により、夜間時の業務負担の軽減を図る。また、蓄積されたデータから、入居者の生活リズムや体調変化を把握し、きめ細やかな介護の実践に繋げる。(変更)
行動計画	・ 眠り SCAN から得られる睡眠データを分析し、分析したデータをケアプランに活かし、入居者の生活改善につなげる。(継続) ・ 眠り SCAN 等 ICT 機器を活用し、業務の効率化を図り、業務負担軽減や時間外業務を削減する。(継続)
評価	・ 眠り SCAN を全床導入し、睡眠状態に応じた排泄介助の見直し等を行った。 ・ ICT 機器の活用により夜間の巡視や排泄介助が減少し、職員の負担が軽減した。
取組の方向性②	情報システムの課題整理及び記録のあり方について、園内で協議する場を設ける。
行動計画	・ 記録の質を向上させるため令和 6 年に記録部会で作成した記録のガイドラインや記録マニュアルに沿った記録ができるよう研修会を実施する。(変更)
評価	・ サービスの質の向上につながるよう記録の統一や底上げを図るため、記録のガイドラインや記録マニュアルに沿った記録ができるよう研修を実施した結果、一定の改善が見られた。

実施施策	腰痛予防対策の推進
取組の方向性①	健康づくりやセルフケアの大切さを浸透させる為、安全衛生委員会で腰痛予防についての情報を発信し、アプローチする。
行動計画	・ 腰痛発生メカニズムや腰痛予防方法（セルフケア）等のオンライン研修の実施や情報提供を行い腰痛予防意識の向上を図る。(継続)

評 価	<ul style="list-style-type: none"> 老施協デジタルに掲載されている「介護職員のための簡単ストレッチ&トレーニング」について、定期的に福祉見聞録の掲示板に掲載し、腰痛予防に係る意識啓発を行った。また、腰に負担のかからない介助方法について、eラーニングによる自己学習を促した結果、腰痛災害の発生をゼロにすることができた。
取組の方向性②	中腰姿勢等での介助を減らすため、介助方法に見合った福祉用具の導入を検討するとともに、専門部会で定期的に介助方法の見直しを行う。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 担当者会議や介護知識・技術向上部会等で入居者の状態変化に合わせた介護方法や福祉用具の選定、見直しを行い、職員の腰痛予防対策に繋げる。(変更)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> 入居者の状態を踏まえた介助方法について研修等をとおして周知し、福祉用具を適切に使用したことで、職員の心身への負担が軽減した。今後においては、状態変化について予測し、早期に対応できるよう検討していく必要がある。
取組の方向性③	介護技術のスキルアップのため、外部研修への派遣や園内研修を実施する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 施設全体の介護技術を向上させるため、外部研修への参加やメーカー担当者へ外部講師を依頼し、園内研修を実施する。(継続)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> 排泄支援について、作業療法士を中心に1年をとおしてメーカー担当者と連携し、質の高い支援に向けた取組を継続した。技術指導や必要物品の選定について助言をもらい、コスト等を意識して取り組むことができた。

(2) 利用者の生活を支えるサービスの質の向上

ア 先進的で魅力あるサービスを提供し、サービスの質を高める。

実 施 策	食事サービスの質の向上
取組の方向性①	外注食と、施設調理の一部試行を併用しながら食事提供体制を検討する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 朝食を外注食から施設調理に切り替えられるよう体制づくりを行う。(変更) 改善が必要なものやより良い食事提供を行うため、入居者からの要望や意見などは引き続き、ミールラウンドを行い嗜好の聞き取りを行い、厨房内で情報共有する。(変更)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> 職員充足時の施設調理について体制づくりを進め、令和8年4月から施設調理へ切り替える予定である。 嗜好の聞き取りを行い、食事形態に係る改善点や介護員からの意見について、厨房内で情報共有できた。

実施施策	専門性を発揮したケアの実践
取組の方向性①	職員個々の専門性を高めるため、効果的な専門部会を設置する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現行の3つのクラブ（スキルアップクラブ・ハッピーライフクラブ・スマイルクラブ）を令和7年度より新たに4つの部会（①ユニットケア向上部会、②生産性向上推進部会、③地域貢献活動等行事推進部会、④介護知識・技術向上部会）に再編し、それぞれの課題解決に取り組む。（変更） ・ 令和7年度より設置した部会を効果的に運営できるよう管理職がファシリテーターとして参加する。（変更）
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ ユニットケア向上部会 質の高い生活支援を行うため、入居者個々のニーズを把握し、24Hシートを整備した。自宅と施設の暮らしが連続したものになるよう、取組を継続する必要がある。 ・ 生産性向上推進部会 入居者や職員から仕事に関連して希望を募り、外出支援、フォトコンテスト、ケアコンテスト、不用品整理等を実施した。個人としての達成感や、職員間で協力できた達成感からモチベーションアップにつながった職員もいたが、負担に感じた職員もいたため、取組の目的やねらいを十分理解した上で取り組む必要がある。（再掲） ・ 地域貢献活動等行事推進部会 部会を3つのチームに分けて（地域対象行事・園内行事・外部講師招聘研修）、1年をとおして取組を行った。チームによって負担に偏りがあったことが反省点だが、次年度に向けて実施すべきことや、流れについて理解できた。 ・ 介護知識・技術向上部会 誰にとっても分かりやすい内容のマニュアルを作成するため文言等の整理を行ったが、完成には至っておらず、施設として統一した支援を実施するため早急に完成させる必要があり、取組を継続する予定である。 ・ 管理職が全部会にファシリテーターとして参加し、会議進行が良好なものとなるよう、ファシリテーションを行った。
取組の方向性②	ユニットリーダーを中心に、介護員が主体的に入居者の状態像に応じた住環境を整える。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 居室担当者が入居者の状況に合わせて設えを変更し、安心して過ごすことができる居室環境の工夫を行う。（変更）

評 価	<ul style="list-style-type: none"> 暮らしの継続という視点から、なじみの物に囲まれた安心できる設えに係る取組が不十分である。入居時の説明に加え、入居後も家族への協力依頼など働きかけを継続する必要がある。
-----	---

実 施 策	ユニット外活動の充実
取組の方向性①	施設内デイサービスを計画実施できるよう仕組みを構築し、外部ボランティアの協力を得て生け花、習字、カラオケ等のユニット外活動を再開する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 外部ボランティアの協力を得て、隔月での生け花、習字クラブを継続する。(変更) 新たな外部ボランティアを活用したユニット外活動(島根大学神楽サークルに依頼)を実施する。(新規) 施設内デイサービスの年間計画を作成し活動内容を充実させ毎月1回実施する。(変更)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> 現在、2名の外部ボランティアに、生け花及び習字クラブで活動してもらっているが、ユニット外行事で活動してもらおう島根県立大学や外部ボランティアへの働きかけが不十分で、新たなボランティアの獲得には至らなかった。 施設内デイサービスについて、人員不足の影響もあり毎月の実施は困難だった。計画の立案、実施に向けた各部署への協力依頼など、施設全体の取組として報連相を強化する必要がある。 施設内デイサービスで子ども神楽に参加してもらったところ、入居者の笑顔を見ることができた。今後においても、入居者がどんなことに興味を持っているのか把握し、それに応じて計画・実施するとともに、ユニット内での実施が難しい軽運動など身体を使って行う活動が好評だったため、継続したい。

イ 安全安心で快適な暮らしを保障し、利用者の満足度を高める。

実 施 策	権利擁護意識の浸透
取組の方向性①	職員が自らの行動、言動を振り返るためのチェックシートを作成・実施し、権利擁護意識の向上を図る。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 職員が自らの行動や言動を振り返り、権利擁護意識を向上させるため、『虐待の芽チェックリスト』を活用し、全職員にセルフチェックを実施する。集計・分析し課題把握を行い改善に取り組む。(変更)

評 価	<ul style="list-style-type: none"> 職員が自らの言動を振り返り、権利擁護意識を向上させるため、「虐待の芽チェックリスト」を使って職員がセルフチェックを行った。68名が回答し、集計・分析を行って課題を把握したが、施設全体で計画的に改善に取り組む必要がある。
取組の方向性②	権利擁護意識を浸透するため、継続して外部講師を招き、職員自身の振り返りを振り返る。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 権利擁護意識を向上できるように、園内研修に外部講師を招き研修を実施する。(継続)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師を招き、権利擁護・高齢者虐待防止研修を行った。権利擁護意識向上のため、次年度も研修を実施予定である。

ウ 施設機能を積極的に開放し、地域とのつながりを強化する。

実 施 策	地域における公益的な取組の継続
取組の方向性①	「寄りあい喫茶かいせい」の実施、福祉講演会(福祉フェス)の開催により、住民に愛される地域資源としての偕生園を確立する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 地域とのつながりを強化するため、「寄りあい喫茶かいせい」を年2回実施する。(継続) 寄合処を活用し、地域の方々を対象とした福祉講演会(福祉フェス)を年1回計画、実施する。(継続)
評 価	<ul style="list-style-type: none"> 「寄りあい喫茶かいせい」は1回のみ開催(9月)になったが、23名の方が参加された。昨年度よりも参加者が増え、広く偕生園を知ってもらうことにつながった。次年度は1回目を7月までに開催し、2回目の開催に向けて余裕を持って準備できるようにする必要がある。 福祉講演会を開催し、認知症VR体験会を行った。21名が参加し(職員含む)、VR視聴により認知症への理解が深まり、啓発にも有効であるなど、好意的な感想が多かった。

(3) 安定的で持続的な経営基盤の確立

ア 収入の安定確保と経費増大の抑制で、安定性の高い財務体質を維持する。

実 施 策	介護老人福祉施設事業の収入確保
取組の方向性①	退所に伴う空床期間の短縮に向けた取組を継続する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 入居検討委員会にて選定した候補者のうち事前調査済みの候補者を常時3名程度確保し、空床が発生した際には、速やかに入居に繋げる。(継続)

		<ul style="list-style-type: none"> 入所申し込みのあった待機者の状況把握と確認を行い、年1回、名簿の整理を行う。(新規)
評	価	<ul style="list-style-type: none"> 退所者が多く、事前調査を実施した者を常時3名確保することが困難で、空床後の速やかな入居につなげることができなかった。 入所待機者の状況把握と確認を行ったが、名簿の整理はできなかった。
取組の方向性②		医療依存度の高い申込み者の受け入れについて検討する。
行	動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 「医療ニーズの高い利用者の受入に関するガイドライン」に従い、かかりつけ医や看護師と協議しながら受入れを行う。(継続) 必要に応じて「医療ニーズの高い利用者の受入に関するガイドライン」の見直しを行う。(継続)
評	価	<ul style="list-style-type: none"> 「医療ニーズの高い利用者の受入に関するガイドライン」に従い、かかりつけ医や看護師と協議・連携して受入れを行った。 年度当初、「医療ニーズの高い利用者の受入に関するガイドライン」について見直し及び修正を行った。

実 施 策		居宅サービス事業の方向性の検討
取組の方向性①		通所介護事業所は、他圏域事業所の情報収集を行い、他事業所と競合しない特色ある事業所作りを多職種で検討し、利用率の維持向上に繋げる。
行	動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> 介護支援専門員と情報提供や情報交換を密に行い、利用率の向上につなげる。(新規) 事業所アンケート、利用キャンセル分析を継続して実施する。(継続) 利用者、家族が求めるサービスについて分析し、独自のサービス展開へと繋がるよう業務整理をする。(継続) 18名の定員が満員となるように居宅介護支援事業所等へ空き情報の提供を行うとともに、利用者、家族とも良好な関係作りに努める。(継続)
評	価	<ul style="list-style-type: none"> 担当者会議や契約時、その他日常的に新規利用希望について聞き取りを行うとともに、実績配布時に利用可能日について情報提供を行った結果、少しずつだが問い合わせが増え、新規利用につながった。 事業所アンケートは行わなかったが、利用キャンセルについて分析を行った結果、体調不良に加え、本人や家の都合によるキャンセルがほとんどであることが分かった。 2月に利用者や家族へアンケートを実施した。集計結果を職員で共有し、利用者や家族が求めるサービスについて検討を行っているところである。また、3月の運営推進会議においてアンケート結果と

	<p>事業所の現状について報告し、出席者からアドバイスをももらったことについては、令和8年度に対応する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 空き情報を毎月提供し、新規利用者がいないか電話や口頭で確認した。下半期は上半期に比べ新規の申込みが増えた。また、普段の関わりやこまめな連絡をとおして、家族や利用者と信頼関係を築くことができた。
取組の方向性②	<p>居宅介護支援事業所は、介護保険制度の要となる事業であると共に、次世代を担う介護支援専門員の育成を念頭に置き、特定事業所加算を算定できるような人員配置も含め、今後の事業展開について検討し、方向性を決定する。</p>
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の特性や資源を把握し、他の事業所との情報共有を行いながら担当件数を増やし、安定的な稼働率を目指す。(変更) ・ 特定事業所への移行については費用対効果、職員確保や担当者件数等も考慮し、検討する。(変更)
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浜田市地域包括支援センター、サブセンター金城、地域連携室等と関係ができ、少しずつだが紹介件数を増加させることができた。 ・ 特定事業所への移行については、職員確保の面で課題が多く、検討に至らなかった。

イ 中長期的な視点をもって、持続性の高い経営を行う。

実施施策	施設内の居住環境の改善
取組の方向性①	湿度が上がらない居室については加湿機能付きエアコン設置も含め今後、状況をみながら検討する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各ユニットに設置した加湿器について、課題を整理し、費用対効果について検証する。(変更)
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ ユニットから加湿等について要望が上がってくることはなく、新たな対策は行っていない。今後、必要に応じて対策を検討する。

ウ 組織内の連携を強化し、強固な組織体制と経営基盤を確立する。

実施施策	チームケアの推進
取組の方向性①	組織内の連携を強化する為、報告・連絡・相談の重要性和効率的なやり方を学ぶ機会を設け、チーム力を向上する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多職種の役割や業務内容をまとめた一覧表を活用し、多職種理解を深める。(継続) ・ チーム力の現状分析を行い、グループワークを通して現状の課題と個々の取り組み課題を作成し、チーム力向上につなげる。(新規)

評 価	<ul style="list-style-type: none">各職種の役割や業務内容をまとめたガイドブックを活用し、理解を深めた。全職員を対象としたオンライン研修（園内研修）で、報連相をはじめコミュニケーションについて学びを深めた。また、コアメンバー会議やグループリーダー会議、ユニットリーダー会議でコミュニケーション不足がチーム力の低下につながっていることを周知し、コミュニケーションの充実について呼びかけた。チーム力については、部署間での協働について理解が不足しており、事故発生時の対応、対策に係る協議等が不十分であり、専門的な視点での考察力に課題が残った。個々の目標設定やチームの目標設定については、課題の理解・把握ができつつあり、個の成長が見られた。
------------	---

4 数値目標

事業名	目標	実績	評価
介護老人福祉施設	98.0%	91.3%	年度当初に9床の空床があったことに加え、退所者が33名と多かった。また、事前調査など入居準備に時間を要した結果、退所後の空床日数が平均32日を超え、目標を大きく下回った。
短期入所生活介護	93.0%	97.8%	利用キャンセルへの速やかな対応、積極的な空床利用等を行った結果、目標を大きく上回った。
地域密着型通所介護	80.0%	63.5%	定期利用者の入院、死亡、他サービス利用等が重なり利用率が低下した。新規利用希望はあったものの、遠方であったことや、医療的ケアを必要とするため受入れが困難であり、目標に至らなかった。
居宅介護支援	63件/月	58件/月	浜田圏域における要介護認定者数の減少に伴って件数が減少した結果、目標に至らなかった。
介護予防支援業務受託件数	8件/月	13件/月	居宅介護支援件数が減少したため、介護予防支援業務受託件数の上限を見直した結果、目標を上回った。